

佐々木やすの_の愛唱歌

【大正時代の唄】

	カチューシャの唄	松井 須磨子	船頭小唄
	ゴンドラの唄	松井 須磨子	籠の鳥

【昭和時代の唄】

3年	君恋し	二村 定一	12年	青春日記	藤山 一郎
	波浮の港	藤原 義江 佐藤 千夜子		妻恋道中	上原 敏
4年	愛して頂戴	佐藤 千夜子	13年	流転	上原 敏
	東京行進曲	佐藤 千夜子		別れのブルース	淡谷 のり子
	浪速小唄	二村 定一		雨のブルース	淡谷 のり子
5年	祇園小唄	藤本 二三吉	14年	おしどり道中	上原 敏 青葉 笠子
	酋長の娘	新橋 喜代三		悲しき子守唄	ミス コロンビア
6年	侍ニッポン	徳山 璉	15年	支那の夜	渡辺 はま子
	島の娘	小唄 勝太郎		上海だより	上原 敏
7年	天国に結ぶ恋	徳山 璉 四家 文子	16年	旅の夜風	霧島 昇 ミス コロンビア
	涙の渡り鳥	小林 千代子		満州娘	服部 富子
8年	サーカスの唄	松平 晃	17年	大和根月夜	田端 義夫
	十九の春	ミス コロンビア		上海の花売娘	岡 晴夫
9年	赤城の子守唄	東海林 太郎	18年	純情二重奏	霧島 昇 高峰 三枝子
	国境の町	東海林 太郎		古き花園	二葉 あき子
	並木の雨	ミス コロンビア		何日君再来ホーリーチ ンツアイライ	渡辺 はま子
10年	雨に咲く花	関 種子	19年	港シャンソン	岡 晴夫
	船頭可愛や	音 丸		名月赤城山	東海 林太郎
	旅笠道中	東海林 太郎		お島千太郎旅唄	伊藤 久男 二葉 あき子
	野崎小唄	東海林 太郎		高原の旅愁	伊藤 久男
	二人は若い	ディック ミネ 星 玲子		蘇州夜曲	渡辺 はま子
	緑の地平線	楠木 繁夫		誰か故郷を想わざる	霧島 昇
	無情の夢	児玉 好雄		新妻鏡	霧島 昇 二葉 あき子
11年	むらさき小唄	東海林 太郎	20年	目ン無い千鳥	霧島 昇 松原 操
	ああ それなのに	美ち奴		別れ船	田端 義夫
	愛の小窓	ディック ミネ		明日はお立ちか	小唄 勝太郎
	うちの女房にや髭が ある	杉 狂児 美ち奴		南の花嫁さん	高峰 三枝子
	花言葉の唄	松平 晃 伏見 信子		湯島の白梅	小畑 実 藤原 亮子
12年	人妻椿	松平 晃	21年	勘太郎月夜	小畑 実
	忘れちゃいやよ	渡辺 はま子		湖畔の乙女	菊地 章子
13年	青い背広で	藤山 一郎	22年	十三夜	小笠原 美都子
	裏町人生	上原 敏 結城 道子			

【その他】

① ミス仙台	③ さんさ時雨	⑤ 小野田甚句	
② 宮城長持唄（仙北長持唄）	④ 佐渡おけさ	⑥ 仙台第二高等学校校歌	

「佐々木 健一」さんが作ったものを やすのさんの弟 勇二が懐かしさのあまり、H24.8.8:複写しました。

月籠の鳥

千野かほる 作詞 鳥取春雄 作曲

大正

逢いたさ見たさに怖さを忘れ
暗い夜道をただ一人
逢いに来たのになぜ出て逢わぬ
僕の呼ぶ声忘れただか
貴郎の呼ぶ声忘れはせぬが
出るに知らぬ籠の鳥
籠の鳥でも智恵ある鳥は
人目忍んで逢いに来る
人目を忍べば世間の人は
怪しい女と指ささん

怪しい女と指さされても
誠心こめた仲じゃもの
指をさされちゃ困るよ私
だから私は籠の鳥
世間の人よ笑わば笑え
共に恋した仲じゃもの
共に恋した二人が仲も
今は逢うさえまならぬ
ままにならぬは浮世の定め
無理に逢うのが恋じゃもの

●(19) オリンピック大会に19人参加。甲子園球場完成(大13)。

浪花小唄

二村定 歌

昭和4年

いとし糸心く 雨女にびよけ
かけた情を 知りやせまい
テナモンヤ ないかないか道頓堀よ
恋のサイレン 何処までとどく
待てば思いも みなとどく
テナモンヤ ないかないか道頓堀よ
消えてまたつく 五色の灯り
女ごころを 知りやせまい
テナモンヤ ないかないか道頓堀よ

消えてまたつく 五色の灯り
男ごころを 知りやせまい
テナモンヤ ないかないか道頓堀よ
燃えて火となる 私のこころ
こがれこがれりや 火ともなる
テナモンヤ ないかないか道頓堀よ
虹の灯のまち 夜明かし雀
たもとたもとの 紅が散る
テナモンヤ ないかないか道頓堀よ

●ニユーヨー株式会社通大暴落(鶴黒の木曜日)、世界恐慌始まる。

天国に結ぶ恋

徳山 健四郎 歌
柳水芭 作詞 林純平 作曲

昭和7年

！今宵名残りの 三日月も
消えて淋しき 相模灘
涙にうるむ 漁火に
この世の恋の はかなさよ
！あなたを他所に 嫁がせて
なんで生きよう 生まじりりやう
僕も行きます 田様の
お傍へあなたの 手を取って

！ふたりの恋は 清かつた
神様だけが 御存知よ
死んで楽しい 天国で
あなたの妻に なりますわ
！いまぞ楽しく 眠りゆく
五月青葉の 坂田山
愛の二人に ささやくは
やさしき波の 子守唄

●日本橋のテパート白木屋で出火。初の高層ビル火災、死者14名。

涙の渡り鳥

小林千代子 歌

昭和7年

雨の日も 風の日も
泣いて暮らす
わたしや浮世の 渡り鳥
泣くのじやないよ
泣くじやないよ
泣けば翼も ままならぬ
あの夢も この夢も
みんなちがわり
わたしや涙の 旅の鳥

泣くのじやないよ
泣くじやないよ
泣いて昨日が 来るじやなし
なつかしい 故郷の
空は遠い
わたしやあてない 旅の鳥
泣くのじやないよ
泣くじやないよ
明日も越えましょ あの山を

●映画一茶太郎五、生まれては見たけれど、天国に結ぶ恋、金色夜叉。

月 十九の春

ミス・コロムビア 歌

昭和8年

ながす涙も 輝きみちし
あわれ十九の 春よ春
重つみつつ 散る白露に
泣きし十九の 春よ春

我世さみしと 嘆く小鳥
春はまたくる 花も咲く
愛の光に 夜はほのぼのと
明けて十九の 春よ春

君はやさしく 涙は甘く
歌をつたえは 花散りぬ
乙女振袖 ゆく白雲も
われを眺めて 流れ行く



●「サイタサイタ」で始まる、4色刷りの国定教科書の使用開始。

月 青春日記

藤山一郎 歌

昭和12年

初恋の
涙にしほむ 花びらを
水に流して 泣きくらす
哀れ十九の 春の夢

泣き濡れて
送る手紙の 恥しさを
待てば淋しや しみにみこ
街の舗道の 雨の音

今日もまた
瞳に燃ゆる 夕映えに
思い乱れて 紫の
ペンのインクも だにながち

明日から
一度と泣くまい 恋すまい
いくら泣いても 笑つても
胸の傷手紙 泣き止むは

●朝日新聞の神風号、立川→ロンドン間を94時間17分56秒で飛行。

月 悲しき子守唄

ミス・コロムビア 歌

昭和13年

可愛いおまえが あればこそ
つらい浮世も なんのその
世間の口も なんのその
母は楽しく 生きるのよ

つらい運命の 親子でも
吾が子は吾が子 母は母
神様だけが 知っている
たまに逢う日の 子守唄

可愛いお目目々 まるい手々
見れば撫でれば 悲しみも
忘れていつか 夢の国
母は涙で 笑うのよ



●落語家や漫才師の前線慰問団「わらわし隊」の第1陣、中国へ。

月 純情二重奏

霧島 昇&高峰三枝子 歌

昭和14年

↑森の青葉の 蔭に来て
なぜに淋しく あふるる涙
想い切なく 母の名呼べば
小鳥こたえぬ 亡き母こいし

↑田の形見の 鏡掛け
色もなつかし 友染模様
抱けばほほえむ 花嫁すがた
むかし乙女の 亡き母こいし

↑君もわたしも みなし子の
ふたり寄り添い 竜胆摘めど
誰に捧げん 花束花輪
飼こたえよ 亡き母こいし

↑春は燕 秋は雁
旅路はてなき みなし子二人
合わす調へに 野の花揺れて
雲も泣け泣け 亡き母こいし

●東京市で隣組国旗板10万枚を配布。月2回の旗組回覧も始まる。

蘇州夜曲

渡辺はま子 歌

昭和15年

君がみ胸に 抱かれてきくは
夢の船歌 恋の唄
水の蘇州の 花散る春を
惜しむか柳が すすりなく

髪にかざるか 口づけしよか
君が手折し 桃の花
涙くむよな おぼろの月に
鐘が鳴ります 寒山寺

花を浮かべて 流れる水の
明日の行方は 知らねども
水につつじた 二人の姿
消えてくれるな いつまでも



●東京のダンスホール全面閉鎖。各ホールはラストダンスで満員。

新妻鏡

霧島 昇 二葉あき子 歌

昭和15年

僕がこころの 良人なら
君がこころの 花の妻
遠くさびしく 離れても
なくな相模の 鷗どり

強くなろうよ 強くなれ
母となる身は 幼児の
愛の揺籃 花の籠
なんて風に あてらりよう

たとえこの眼は 見えずとも
聖いあなたの おもかげは
きつと見えます 見えました
愛のこころの 青空に

むかし乙女の はつ島田
泣いて踊るも 生計なら
清い二人の 人生を
熱い泪で うたおうよ

●紀元2600年祝典挙行。豊酒が軒され、赤飯用のもち米が特配。